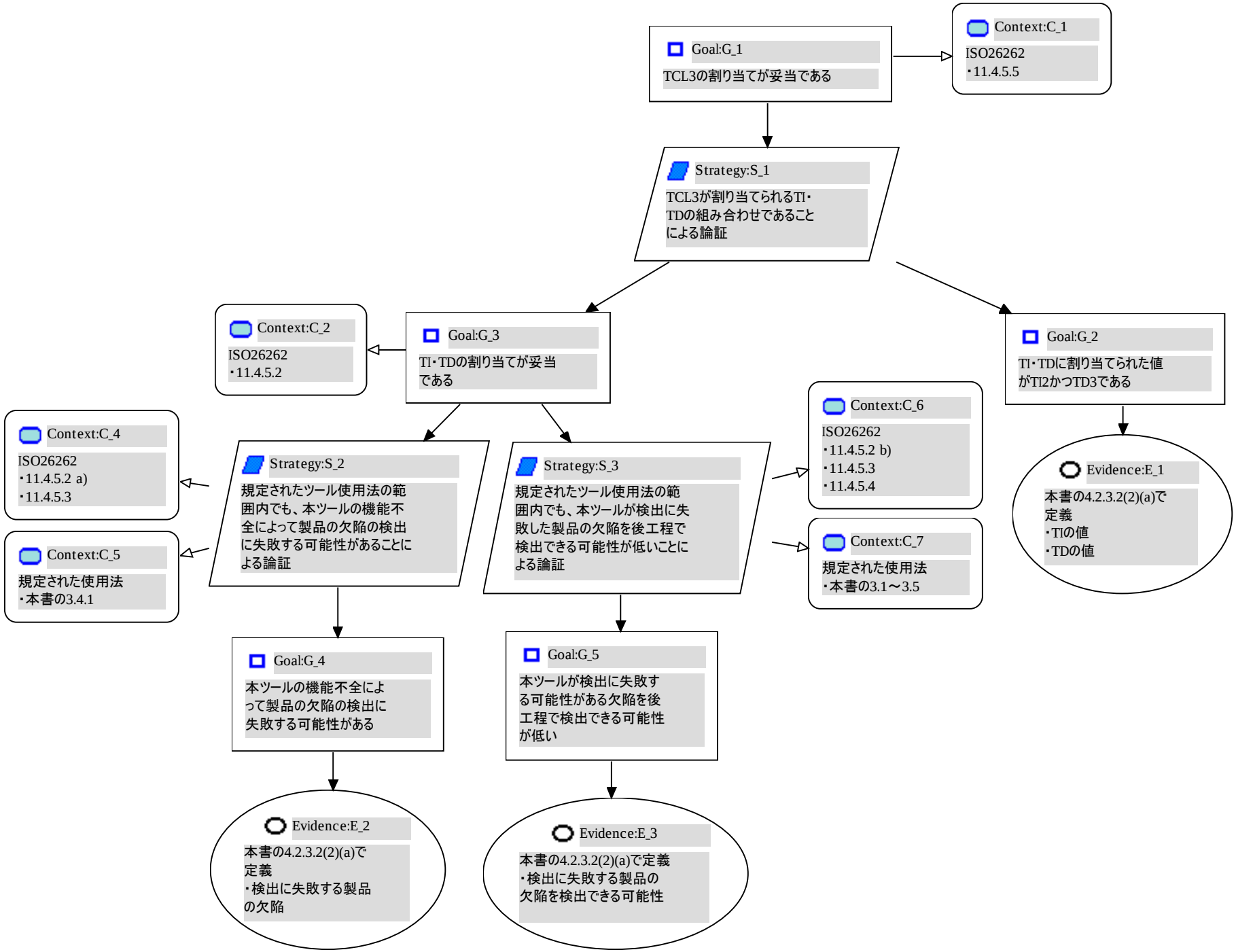
Goal:G_1
TCL3の割り当てが妥当である
Context:C_1
ISO26262
・11.4.5.5
Strategy:S_1
TCL3が割り当てられるTI・TDの組み合わせであることによる論証
Goal:G_3
TI・TDの割り当てが妥当である
Context:C_2
ISO26262
・11.4.5.2
Goal:G_2
TI・TDに割り当てられた値がTI2かつTD3である
Evidence:E_1
本書の4.2.3.2(2)(a)で定義
・TIの値
・TDの値
Strategy:S_2
規定されたツール使用法の範囲内でも、本ツールの機能不全によって製品の欠陥の検出に失敗する可能性があることによる論証
Context:C_4
ISO26262
・11.4.5.2 a)
・11.4.5.3
Context:C_5
規定された使用法
・本書の3.4.1
Strategy:S_3
規定されたツール使用法の範囲内でも、本ツールが検出に失敗した製品の欠陥を後工程で検出できる可能性が低いことによる論証
Context:C_6
ISO26262
・11.4.5.2 b)
・11.4.5.3
・11.4.5.4
Context:C_7
規定された使用法
・本書の3.1～3.5
Goal:G_4
本ツールの機能不全によって製品の欠陥の検出に失敗する可能性がある
Evidence:E_2
本書の4.2.3.2(2)(a)で定義
・検出に失敗する製品の欠陥
Goal:G_5
本ツールが検出に失敗する可能性がある欠陥を後工程で検出できる可能性が低い
Evidence:E_3
本書の4.2.3.2(2)(a)で定義
・検出に失敗する製品の欠陥を検出できる可能性